絵本の研究

6才児の親近語彙集 付

著者
阪本一郎

日本文化科学社

絵本の研究

6才児の親近語彙集 付

著 者
阪 本 一 郎

日本文化科学社

著者紹介

阪本　一郎（さかもと　いちろう）

1904年7月1日に生まれる。
東京文理科大学教育学部心理学科卒業。同研究科修了（児童心理学・児童文化専攻）。文学博士。
東京第一師範付属小学校主事，東京学芸大学教授，日本女子大学教授を経て現在，文教大学女子短期大学部教授。
主著：「教育基本語彙」「読書指導の原理と方法」「読書の心理」「人格形成と児童詩の心理」他。

検印廃止　　1977年2月20日初版発行　©

絵本の研究
—6歳児の親近語彙集付—

著者　阪本一郎
印刷所　株式会社　KMS

発行所
株式会社　日本文化科学社
東京都文京区本駒込6-15-17
振替口座　東京1-38282
〒113　電話　東京（946）3131

乱丁・落丁本はお取り替えします
本書の内容を無断で複製または転載すると著作権ならびに出版権の侵害になりますからご注意ください

3037-60350-6007
定価はカバーに表示してあります

はしがき

わが国の絵本の出版も，量質ともに，国際的水準に達したと思われる。これはまことに結構なことで，子どもたちのために喜ぶべきである。しかし子どもの絵本というと，一般に幼稚な段階で見られ，厳正な批判がなされないような状態が長く続いたために，まだ教育的でない絵本も発行されているようである。つまり，玉石混淆（こんこう）というのが現状である。

ひるがえってわが国の子どもの絵本についての研究は，牛島義友氏の『絵本の研究』[6]だけしかなかった。これは，第2次世界大戦の終わりごろにまとめられたもので，当時としてはりっぱな研究であった。しかし，敗戦によって日本の国情は一変してしまい，今日では拠り所とはならない。ところが，数年前から学会で発表される論文に絵本を扱ったものが散見するようになり，また松居直氏の『絵本とは何か』[51]が編集者の立場から取り上げられ，そのほか絵本に関する発言がようやく活発になりつつある。

さらに最近の親たちの間では，子どものために手造りの絵本を製作する運動が始まっている。よい絵本ができればあつらえ向きだが，趣味におぼれて子ども不在の絵本になりやすい。では，どういう条件に合うのがよい絵本であるか。

私は，ここに6領域18項目の条件を提案しようとするのが，本書を書く動機となった。なるべくわかりやすくするために，専門的な用語は避けたが，統計的な処理をする部分（9章）ではやむなく使用した。これによっ

て，わが国の絵本の出版がせっかく抜いた国際的水準を維持するために，少なくとも教育的でない絵本を駆逐するために役立てば幸いである。

この研究を進める途中で，多くの方々のお世話になった。また，出版を引き受けてくださった旧友の日本文化科学社社長茂木茂八氏，編集部の方方に感謝の意を表する。

1976年8月17日

国際読書功労賞受賞の日

著　　者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　　次

はしがき

1　絵本の意義 …… 1

絵本とは …… 1

絵本の機能から見た種類 …… 3

絵本の内容から見た種類 …… 7

絵本の役割 …… 11

欧米の絵本の沿革 …… 13

日本の絵本の沿革 …… 18

2　よい絵本の条件 …… 25

よい絵本とは …… 25

評価の恒常性 …… 27

50冊の物語絵本 …… 31

絵本のリスト …… 32

3　主題についての尺度 …… 36

主題とは …… 36

『桃太郎』の主題 …… 36

『ご機嫌なライオン』の主題……40
主題の尺度……42

4 構想についての尺度 ……45

構想とは……45
『ちびくろサンボ』の構想……45
『大国主の冒険』の構想……47
『醜いアヒルの子』の構想……49
構想の尺度……51

5 性格描写についての尺度 ……54

性格描写とは……54
登場人物数……55
人深係数……56
主人公の突出度……57
『桃太郎』の性格描写……57
『101匹わんちゃん大行進』の性格描写 ……59
『雀の魔法』の性格描写……62
『空の救助隊』の性格描写……64
性格描写の尺度……65

6 叙述についての尺度 ……68

叙述とは……68
叙述の尺度……68
『トラック・トラック』の物語の評価……74

『お母さん大好き』の物語の評価……75
『お爺さんのバイオリン』の物語の評価……76
『一人ぼっちの鶴』の物語の評価……77

7 描画についての尺度 ……79
描画とは……79
描画の尺度……81
印刷・造本についての尺度……89

8 同じ主題を扱った絵本の比較 ……92
2冊の『源五郎』の比較……92
4冊の『3匹の子豚』の比較……94

9 統計的に処理する尺度の基準 ……101
性格描写に関する尺度の統計的基礎……101
叙述に関する尺度の統計的基礎……105

10 50冊の絵本の評価……116
総合評価……116
評価の実際……117
評価尺度のまとめ……140

11 6歳児の親近語のリストの選定 ……149
親近語とは……149
第1次選定……150

第2次選定…… 155
参考——居住地区の親近語の差…… 157
親近語のリスト…… 158

12 6歳児の親近語彙のリスト …… 159

参考文献…… 210
人名索引…… 213
事項索引…… 215

1

絵本の意義

絵本とは…… 絵本というと，今日では，幼児が見て楽しむ絵の本と考えるのが常識になっているが，もっと年長の児童や青年，大人までが見たり読んだりする絵本もある。図譜・図鑑・図説・図絵（会）・画集・画報・画帖などと呼ばれているのがそれで，これらは印刷術の発達にともなって，自然色のまま鑑賞されるようになっている。

もともと絵本は大人のものであった。絵本は西洋のほうが早く作られているが，昔の僧侶たちは布教のために大人の絵本を作っている。それは無学の大衆のためには，文字だけでは親しまれず，直観的にわかる絵を添える必要があったからであろう。

また日本でも，藤原時代から鎌倉時代にかけて「絵巻物」が作られている。これは印刷されたものではなかったが，文字（ことばがき）と絵とが対応して，さながら絵本の仕組と同じになっている。おもに物語・伝記・寺社の縁起などを主題としたものであった。下って江戸時代には，芝居番付も「絵本」と呼ばれ，通俗的な読物の挿絵本も一般に「絵本」と呼ばれた。17世紀のはじめにかけて，美しい肉筆彩色の「奈良絵本」があらわれ，ついで「大形浮世絵本」となり，表紙の色で「赤本」「黒本」「黄表

紙」などと呼ばれて，絵双紙屋で売られたものである。これらもおおむね大人むきの民間説話や武勲談などであった。そして，19世紀までは子どもむきの絵本は生産されなかった。

しかし冒頭に書いたように，現代では，絵本は子どもの文化財になり，大人の絵本は上記のように他の名称で呼ぶようになった。

そこで絵本の意義は変わった。絵本は幼児に対する通信(communication)の媒体となった。絵の直観性を利用して幼児の環境にある事物や現象のイメージを与え，これによって文学の世界に接近させる通路としての意味を持つようになった。それも幼児の発達にしたがって，次のような段階性を帯びている。

初期の絵本は，ことばの音声とそれに結びついている意味とを確かめることに中心がおかれる。それには大人が描かれている絵の１つ１つについて名称を言い聞かせ，子どもはその名称をくり返して言い，それが合致すれば子どもは満足する。また進んでは，描かれている絵の情況や感想などについての話しあいが始まる。つまりこの段階では，絵本は話しことばの媒体となり，話しことばの学習を促進する機能を発揮するのである。

ついで５歳ごろの子どもは，文字を発音記号として認知しはじめる。しかしすべてのかな文字を学習し終わるまでは，１字ずつの拾い読みをし，何と読むのかわからない文字は，絵によって推測するかまたは大人に聞く。自分で読み始めるが，つっかえつつ読むし，未学習のことばに出くわすと大人に説明を求めなければならないしするから，読みの速度はきわめて遅い。この段階では読みことばの学習が始まる時期だから，短い物語で読みやすい文体で書いたもの，絵に自分で読もうとする魅力のあるものが望ましい。

ついで，もうつっかえずにかな文字が自分で読めるようになると，ぼつ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ぼつ文章の味がわかるようになる。まだ十分とは言えないが，文学の基礎に入門させる段階である。思考力と想像力がゆたかになり，まだ自分が経験したことのない架空の世界にはいれるようになる。それとともに各種の情緒も大人なみに分化してきている。そこで絵本は，文字の分量がふえ，絵は「さし絵」に近づく。だが，まだ文字が読めると言っても「棒読み」で，「表現読み」（緩急・強弱・高低・間などで情景を表現して読むこと）はできない。これができるようにするには，何度かの読み聞かせが必要である。示範のとおりに読めなくても，示範の印象が残るから，それでよい。

こんなふうに幼児に与える絵本も，幼児期は成長発達が急速であるから，それにつれて絵本の内容が推移することを考えなければならない。

絵本の機能から見た種類……絵本は上記のような段階に応ずるために，大別すると3種に分かれる。第1段階に与える絵本は絵ばかりの本，第2段階に与える絵本は絵と文字とが同居している絵本，そして第3段階に与える絵本は文章が主で，絵は従の関係におかれるものである。これらについて，さらに説明しよう。

1.　**純粋の絵本**（Picture Book）――2～4歳の幼児に与えるのが適当な絵本で，絵ばかりの本である。ただし描かれている物の名称が文字で書かれている絵本もある。また，「あかい　はな」「かわいい　ねこ」のように形容詞や，「あめが　ふる」「りんごを　たべる」というように動詞などが添えてある絵本もある。話しことばを学習する時期にふさわしい絵本である。

絵は見開きの2ページに，いろいろの物――普通の幼児が興味を持ち，その名称を覚えることが望ましい物――が，雑然と陳列してあるもの，分

類して乗り物は乗り物ばかり，果物は果物ばかりというように同類を陳列してあるものなどがあるが，初期には前者でもかまわない。しかし，縮尺の度が大変ちがう物を並べていないこと，そのほか，絵については幼児が見慣れている視角から写実的に描き，輪郭をはっきりさせ，なるべく自然に近い色を使い，細部は大胆に省略してその物の特徴をきわだたせたものがよい。物語の筋はなくてもよいが，ある場合には単純な筋を小刻みに展開させ，同じ画面に描いたものがよい。それは幼児はページのめくり方を知らないから，でたらめにめくると次に続かないからである。

また，幼児たちが親しんでいる子守歌・わらべ歌などから絵本にはいるのもよいが，わが国ではあまり適当な絵本が出版されていない。西洋には『マザー・グースの歌』の絵本が幾種類もあって，絵本に親しませるのに広く使われている。これは子どもの間にながく伝承されてきたわらべ歌や童謡を集めたもので，動物，おどけ者，天気，遊び，物語，かぞえ歌，謎などさまざまな主題が歌われているが，しかし歌詞の意味よりも，ことばの持つやさしい快いリズム（同音のくり返しや，韻をふむなど）が，子どもの心を捉えるのである。幼少のころからそれを口ずさんで，拍子をとったり踊ったりする。わが国の絵本にも同じようなねらいのものがいくらかはあるが，唇に歌を持って生まれない民俗では，子守歌さえ歌えない親たちの風習にはならなかったようである。

2. **絵物語本** (Picture-Story Book)—— 5 ～ 7 歳のころに与えるのが適当な，絵と単純な物語とが統合されている絵本である。この段階では，子どもに，自分で読もうとする「読みのレディネス」(reading readiness) が発達してくるから，話しことばから読みことばへの移行に注意しなければならない。

文字に関心を持ち始めるのは早くて 4 歳ごろからで，初めは自分の氏名

などを認知できるようになる。そして5歳で文字の約18%，6歳で約49%にふえ，それから急に上昇して7歳では約93%，そして8歳で約98%になる。これは私の作った「読書レディネス診断テスト」(1953，絶版）の標準であったが，同じテストの中の「絵の指摘」（いろいろの絵に，言われたとおりのしるしを付ける能力をみるテスト）では，4歳児の正答は約18%，5歳児は約56%，6歳児は約78%，7歳児は約86%，8歳児は約97%となっており，絵の理解のほうが早く発達していて，7歳でその傾向が逆転するが大差ではなくなることが知られた[21]。

そこでこの時期の絵本は，文字ことばと絵とが不離不即の関係を保ち，文字ことばの意味と絵のイメージとが一体となって，1つの物語を語る作品が適する。したがって絵は文字ことばの意味をおぎない，文字ことばは絵のイメージをおぎなうから，全体としての物語の展開は「純粋の絵本」よりもかなり大刻みになる。しかし，まだ文字を全部覚えていないし，誤読が混じることもあるから，与えた最初には読み聞かせを何度かしてやる必要がある。

文章は7～8文節（文節は独立語プラス付属語）以下の短い文で構成され，事件の起きた順に記述され，しかも筋はこびに大きな関係のある事がらだけが叙述されたものが，この年齢の子どもに理解される。その上に文と事件とにリズムやくり返しのあるものが好かれる。

また，思考力や想像力が旺盛になるので，現実にはありえない世界にひたることを喜び，愛情・幸福・滑稽・正義・勇気などを主題にした物語を好み，恐怖・怒り・失望・嫌悪・残酷などの暗い反面は（とくに絵で示すことは）嫌われる。

3.　挿絵本（Illustrated Book）―― 8歳以上の子どもに与えるのが適当な挿絵が多い物語の本で，読みことばで物語を理解しながら，時々読みを止

めて挿絵を眺め，読んだ意味を確かめつつ楽しむ絵本である。

したがって文字の面積が絵の面積よりも大きくなり，逆に活字は小さくなる。文章は9文節以上の比較的長い文が多く混じり，子どもの親近語以外の語が次第に多く用いられるようになる。また，事件の順序と記述の順序とが一致しない文章も，この年齢以上では理解される。

描写が次第に緻密になり，文章だけで筋を運ぶようになって，絵はその中の場面を抜き出して描いたものになる。そして上記の暗い反面の情緒にも（ことに男子は）耐えられるようになる。

初めは音読をするが，次第に唇読（声は出さないが唇を動かしている読み）に移り，完全な黙読に移る。唇読は音読の名残りであって，これを行なわせないで，すぐに黙読に移らせたほうがよいという説もある。小学校2～3年生以下は音読するほうが速く読めるが，3～4年生以上では黙読するほうが速いという研究もある。その研究では，大学生に至るまで読みの速度は年ごとに短縮されると報告されている[21]。

しかし，前述のように「表現読み」ができるようになるまでは，読み聞かせてやる必要がある。また子どもは絵本を読んでくれとせがむものである。それは，1つには甘ったれてみて愛情を試すためもあろうが，また1つには大人に読んでもらったほうが表現読みに近く，したがってよくわかり，おもしろいからでもある。すなわち，文学性を味わえるからである。しかし，小学校3～4年生ごろからは，黙読させることも大切である。黙読をしても，前に読んでもらったことのある子は，「内語」(inner speech) で声を出すのと同じように，緩急・強弱・高低・間などを意識して読んでいるのである。そのうちに，前に読んでもらわなくても，黙読で機能的に表現読みができるようになる。

絵本の内容から見た種類……絵本の内容（描かれている絵や物語の主題）から見ると，次のような種類が考えられる。もっとも月刊の絵本などには，数種の内容にまたがっているものある。

1.　**入門絵本**（2歳前後）――この時期には，絵本に入門させるために作られた絵本が適する。そのために現実には立体的に見える事物を，平面的な絵に認知することと，実際には動いて見える事物を，静止した状態に認知すること，実際には大きく見える事物が，小さな絵で認知することなどを学ばせる努力がいる。それには絵と描かれている事物とを同時に見せたり，絵を見せたときと実物を見たときと同じ名前を言うなりして，絵と実物とが同じ名称であることを条件付けるなどをするがよかろう。発音しやすい名称であれば，すぐに子どもは覚えるものである。

前にも述べたように，物語の筋がまったくないもの，あってもごく単純なもので，その筋よりはむしろ子ども自身のできる行動や感覚と結びつけたほうがよい。たとえば，林檎の絵を見せて食べるまねをし「おいしい，おいしい」と教え，まりの絵を見せて「ぽんぽん」と突くまねをしたりさせるのである。

2.　**命名絵本**（2～3歳）――動物・植物・乗物・家具・食物・自然現象など，子どもの身近にある事物を見せて，その名称を覚えさせる絵本。名称を教えるのが目的であるから，写実的にその物の特徴をあらわすように描いたもので，物語は必要ではない。

3.　**生活絵本**（2～4歳）――子どもが親しんでいる遊びや生活の場面，年中行事の場面などを描いて，何をしているところかを言わせ，かつ作法を教えるもの。これも一場面ずつ独立している絵本がよい。子どもの食事・用便・睡眠・着衣・清潔の五大習慣の自立は，4歳ごろまでに完了する

のが基準であるから，これに利用するとよい。また3歳ごろには「なぜ」という質問が多くなるので，そのような質問を誘発し，ことばで納得させるようにする。

4. **リズム絵本**（2～4歳）――子どもが親しめる子守り歌やわらべ歌などを歌って楽しませる絵本で，『マザー・グース』に当たるもの。日本でもぜひ開発してほしい。

5. **子守話絵本**（3～4歳）――子守話はごく短くてしかも楽しい物話で，「桃太郎」ならば桃から桃太郎が誕生した場面，「金太郎」なら熊とすもうをとっている場面，「一寸法師」ならお椀を舟にして箸で漕いでいる場面というように，有名なおとぎ話や民話の一場面が絵で示されていて，子どもがわかるように自由に話してやる絵本。

6. **数・量・形の絵本**（3～4歳）――1つ，2つ，3つ……と数の系列を唱えることは，早くて1歳8か月ごろから覚えるが，これはソラで言えるだけで，実物を教えることはできない。しかし3歳ごろから数がわかり，蜜柑を数えさせると4つまでは正確に数える。4歳では13まで数えられる（これは知能テストの基準とされている）。だが，6歳でも6つ以上の実数が数えられない者は1割ぐらいはいる。こんな状況だから，3歳ごろから数の絵本を与えて，数に慣れさせるがよい。次に計算の能力は，加え算は3歳前後に始まり，6歳には約9割の子どもが，和が10以下になる加え算ならできるし，引き算では10以下の数どうしなら，30～45％の6歳児ができるようになる。また，マル，三角・四角の形や，大きい・小さい，長い・短い，たくさん・少ないなどの量の違いがわかるようにすることも大切である。

7. **観察絵本**（4～7歳）――幼児の科学教育の立場から，観察の補助に利用できる絵本も与えたい。たとえば蝶が卵から幼虫期を経てサナギにな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com